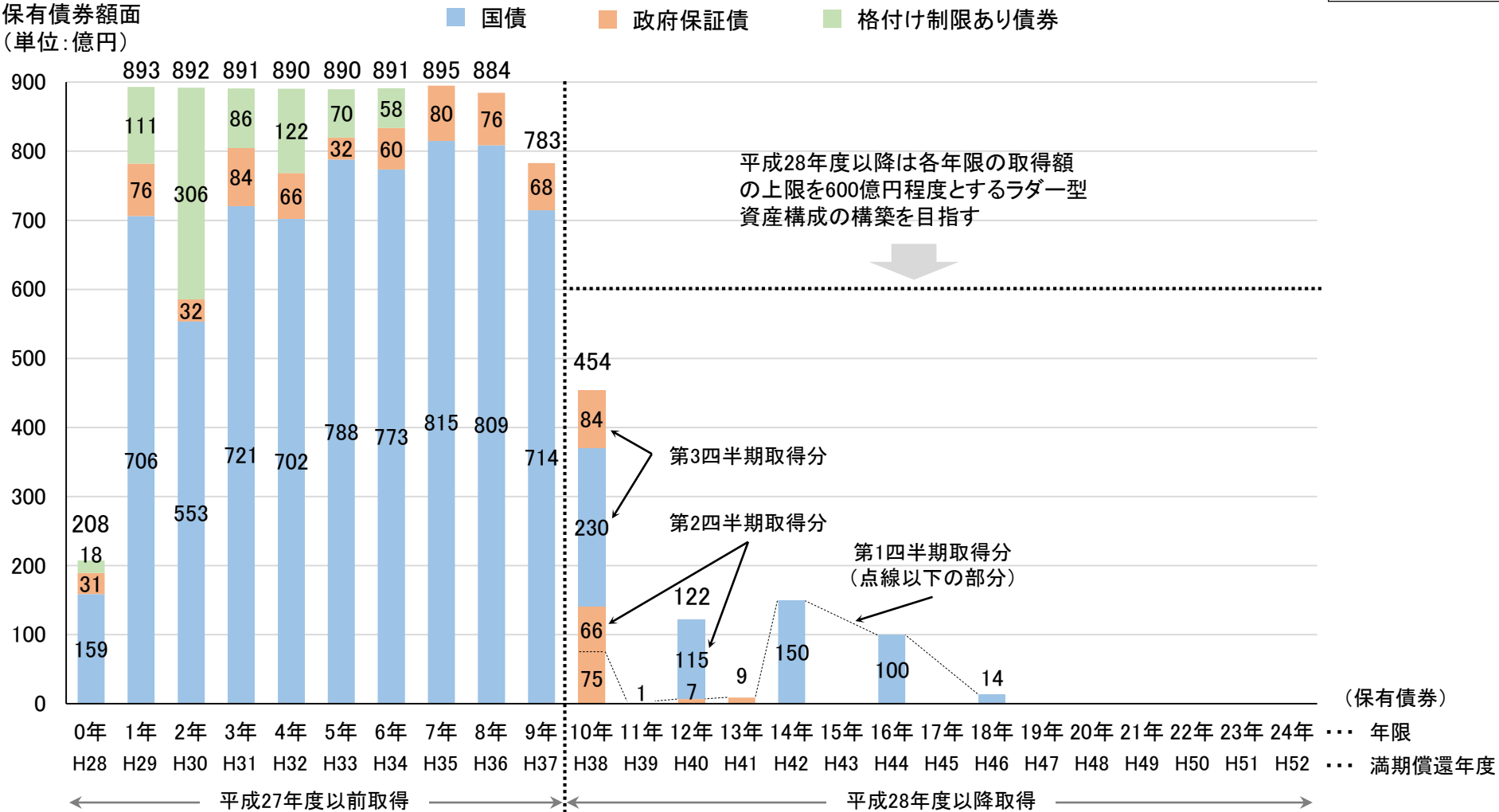


平成28年度第3四半期末におけるラダー型資産構成実績

保有債券額面
(単位:億円)



※1 億円未満を四捨五入して表示しているため、合計額に差異が生じることがある。

※2 満期償還年度が平成30年度(年限2年)の「格付け制限あり債券」の構成比が、他種別と比べて高い理由
 ○満期償還年度が平成30年度(年限2年)の債券は、主に平成20年度に取得した債券である。
 ○平成21年3月までは「運用の基本方針」に基づき、「保有債券全体の債券種別構成比の目標(ストック目標)」を、市場における債券種別構成比に準じるものとしていた。
 ○平成20年度では「格付け制限あり債券」である「社債・金融債」の目標構成比が上昇したことから、この目標を達成するため、多くの「社債・金融債」を取得した。
 ○平成21年4月からは「運用の基本方針」を変更し、「新規取得債券の債券種別構成比の目標(フロー目標)」を、市場における年限10年の債券種別構成比に準じるものにした。

※3 平成25年1月からは「運用の基本方針」を変更し、新規に取得する運用対象資産を「国債」「政府保証債」のみとした。(満期償還年度が平成35年度以降の取得債券)

※4 平成28年4月からは「運用の基本方針」を変更し、これまでの「新規取得債券の債券種別構成比の目標(フロー目標)」を廃止した。各年限の取得額の上限を額面600億円程度とし、加えて「政府保証債」の新規取得額が「国債」の新規取得額を超えないことを目標とした。(満期償還年度が平成38年度以降の取得債券)